



農の未来ネット

NO. 83

8 月号

特定非営利活動 (NPO) 法人農の未来ネット < <http://www.nou-mirai.org/index.htm> >

理事長：後藤光蔵 (武蔵大学名誉教授)

発行責任者：田沼 繁 (NPO 法人農の未来ネット事務局：電話 & FAX 042-497-1645)

編集長：西村正昭 e-mail:toiawase@nou-mirai.org

大学生インターンシップ

みなさんは元気です・・・

今年の大学生のインターンシップ受け入れ期間は 8 月 21 日 (土) から 30 日 (火) の 10 日間。研修生は、立正大学から 3 名 (松本裕太さん、小久保奈々海さん、進藤祐馬さん) と武蔵大学から 1 名 (井田政広さん) の 4 名です。

皆さんのインターンシップ志望理由は？？紙面の都合上お二人の志望理由をご紹介します。

Aさん：私は、地域と密着したまちづくりや町おこしといった仕事に興味を持っています。貴社のインターンシップでは、農業生産を通して地域との関わり合いのなかで実際にどのようなやり取りが行われているのか確かめたいと思います。地域との関係性が重視される貴社だからこそこの度志望させていただきました。

Bさん：私は地元である秋田で就職したいと考えています。第 1 次産業に関わる仕事に以前から興味があり、一度インターンシップを通して体験してみたいと思っておりました。農業関係の仕事の内容をしっかりと見ていきたいと思っています。

さて、研修初日の 21 日は台風 9 号の接近で、深谷地方は荒れ模様の天気予報。前日から現地スタッフは悩みました。実は、同日に東都生協さんの農作業イベントも組まれていたのですが、安全

のため中止と決断。インターシップ研修も悩んだ末、研修開始を 22 日に延期した次第です。

今年の研修内容も多様です。研修初日から埼玉産直センターが傘下の農家の方々を対象に毎年、伊香保温泉で開催している研修会に参加し、大勢の農家の方々と交流していただきました。センター内の加工工場での実地研修では、生産物の袋詰め仕事や色々な野菜を発砲スチロール箱に詰めて

(写真 1-1) ナスの袋詰め実地研修



松本さん (中央)



進藤さん (中央)

(写真 1-2) セット詰め実地研修



井田さん (左 2 人目)



小久保さん (中央)

“セット”を作る仕事 (写真 1) など、従業員の方々に交じっての実地研修。ナスの袋詰めの仕事をしている松本さんに「1 袋何グラムなの。慣れてきた？」と。手を休めず袋詰めしている松本さんは秤を見つめつつ曰く「約 900 g です」と。大

きさもまちまちなナス。中々ちょうどに 900 g とはいきませんよね。



(写真2) 農家の方(右側)にインタビューする研修生

農作物がどう作られているかを体現してもらうため直接農家での農作業体験。さらに、研修生が農家に出

向き、農家の方に直接インタビュー(写真2)。インタビューした内容は、最後のまとめ(販促チラシ作り)に使うとのこと。筆者は、8月29日(月)に、さいたま産直センターにお邪魔し、研修生と懇談いたしました。皆さん元気で、真面目と映りました。来年はみなさん、就活で大変かも知れません。

この研修をバネに頑張ってください。

(田沼 記)

臨時国会で TPP 批准をめ

ぐる議論が再開される



理事長 後藤光蔵

農業後継者の育成に役立つ活動を目的として設立された私たちの NPO にとって、TPP によって日本農業が今後どうなるのかは大きな関心事である。地域農業を支える重要 5 品目(米、麦、牛・豚肉、乳製品、砂糖)の関税は交渉対象から「除外または再協議」「聖域が守れなければ交渉から脱退する」というのが交渉に際しての国会決議であった。しかし TPP には関税の撤廃・削減交渉において、交渉対象としない「除外」「再協議」という規定はなく、全てが交渉の対象となっている。その結果、重要 5 品目、関税品目・タリフラインでいうと 594 品目のうち 29% (170 品目) は関税撤廃、45% は関税削減・関税割当、26% のみが現状の関税率維持であっ

た。しかしその 26% の品目についても米に関して輸入枠をさらに 8 万トン拡大するなど、政府も認めるように無傷だった品目はない。なお重要 5 品目以外のライン数は 2,000、そのうち 98% (1965 品目) が関税撤廃される。

それに加え「TPP テキスト分析チーム」によって、TPP 協定第 2 章第 4 条附属書 2-D でオーストラリア、カナダ、チリ、ニュージーランド、アメリカと 7 年後に再交渉を約束していることが明らかにされた。東京新聞は「全農産品関税撤廃の恐れ」との見出しでこの再交渉で関税が撤廃されることもありうることを報道した。

政府は 7 月の参院選挙への影響を懸念し、TPP の批准に向けての審議を継続審議とした。選挙結果は全体として政府与党が圧勝したかにみえるが、農業県である東北地方を中心とした 11 の 1 人区で野党統一候補が当選した。安倍首相が重点区として何度もテコ入れをして力を注いだところである。TPP が農業を、そして地域を衰退化させるという懸念を多くの人々が抱いていることの表れであっただろう。

いよいよ 9 月 26 日召集予定の臨時国会で、安倍内閣は継続審議となっている TPP の批准と関連法案の成立を目指すことを明らかにしている。TPP 協定は 2 年以内に全参加国が議会承認などの国内手続きを終えられない場合は GDP の合計が 85% 以上を占める 6 か国以上が合意すれば発効すると規定されている。アメリカの GDP の割合は約 60% 強であるからアメリカが批准しなければ TPP は発効しない。そのアメリカは両大統領候補、トランプ、クリントン両氏とも、現時点では TPP 反対を表明している。アメリカが今後どのように動くのかは不透明である。アメリカの状況がはっきりしない下で日本が批准を急ぐことのメリットは全くない。むしろ情報の公開とそれに基づく TPP の内容についての慎重な審議こそが求められているのである。4 月の国会で交渉当事者、甘利前経済産業大臣とフロマン米国通商代表の交渉に関する情報開示の民進

党議員の要求に対して、表題以外は全て黒塗りされた文書が提出されたが、TPP 交渉の秘密主義は徹底している。これでは批准すべきか批准すべきでないかの判断ができない。少なくとも急いで今国会で批准することのメリットはないのである。

その状況を踏まえて、「TPP を批准させない！ 全国共同行動 8.20 キックオフ集会」が全国各地から約 300 人の出席者を得て開かれた。会場からの発言も活発な良い集会であった。今国会で批准させないという目標は多くの人々の要求になりうるし、臨時国会で批准ができなければアメリカの状況も絡んで TPP が廃止される可能性も出てくるという。

最後に。この集会で、山田正彦元農林水産大臣が「TPP 協定で日本はどう変わるか」という包括的な報告をされた。TPP の薬価や保健制度への影響は国民全体にとって非常に重要な問題であるにもかかわらずその内容は良く理解されているとはいえない。今回は内容に立ち入れないが、TPP に関してはもっともっと知る必要があると痛感した。

農業と私



会員 村澤毅志

私は山間の小さな地方都市で一般的なサラリーマンの家庭に生まれました。母の実家は農家でしたが、特に農業に関わる機会はありませんでした。地元の特産品は桃、梨、リンゴ、柿といった果物です。友人には果樹園を営む家の子供も多く、農業に関わる機会としては、繁忙期アルバイト的に友人の家のお手伝いをすることぐらいでした。

上京して 10 年ほどすぎた頃、子供が生まれた

のをきっかけに、埼玉県の小川町に引っ越ししました。その後世間では B S E が大きな問題になり、食の安全や農業に少しずつ興味を持つようになったのもちょうどこの頃です。小川町周辺は有機農業が盛んなところで、知人の紹介で隣の寄居町の有機農家さんから野菜を購入することになりました。その農家の方は愚直なまでにまっすぐに畑に向き合い、すばらしくおいしい野菜を作っています。小川町を離れた今でもその方の作った野菜をいただいています。

小川町を離れる前の約 2 年間は畑の手伝いもさせて頂きました。そこで食や農業について少し考えを深めることになりました。そしていずれは自分や家族の食べるものはほんの少しでも自分で作れるようになりたと思ったのが農業へ興味をもったきっかけです。いわゆる自給的農業です。自給的であれ何であれ、絶対に必要なのは農地ですが、ここでふたつの大きな壁にぶち当たりました。ひとつは「農地は農家でなければ所有できず、農家になるには農地が必要」というパラドックス。もうひとつは年齢の問題です。この二つの壁を越えられないまま、現在は市民農園とみらい体験農場で、ほんの少しだけ農業のまねごとをさせて頂きながら作物を育てています。私は農業にふれ、そのすばらしさや重要性に気づくのが少しだけ遅かったように感じています。農の未来ネットの活動を通じて、若い世代が少しでも早く農業にふれ、何かに気づくきっかけ作りのお手伝いできればなによりです。

理事会報告

NPO 法人農の未来ネット
2016 年度第 3 回理事会議事録
(通算 25 回理事会)

日 時：2016 年 8 月 6 日 (土) 10 時 30 分から

12時 30分

場 所：武蔵大学

出席者：後藤理事長、一之瀬副理事長、田沼事務局長、岩藤理事

(議 事)

1. 報告事項

事務局より、5月～7月までの活動報告及び、この間2名の会員加入があり了承された。

2. 審議事項

1) みらい体験農場

・今年の日開き祭りは、10月2日(土)を軸に、立正大学の北原ゼミと相談しつつ決めることとした。

・7月17日のネギ定植につづき、第2回目を8月14日(日)に行い、草の伸びが激しいことから同時に草取り作業も行うこととした。

2) 学習会の開催について

・11月を目処に開催することとし、テーマ「TPPとコメ(仮題)」、講師は農民連の湯川氏とした。なお、開催に当たって、はたけっこクラブ運営会議でも、さらに開催内容を検討してもらうこととした。

3) 日本高齢者大会参加要請

・8月28日(日)開催の日本高齢者大会分科会座長の要請について協議した結果、引き受けることとした。

§ §

＜編集後記＞

小林節夫さんが8月22日午後5時38分に急性肺炎のため91歳で亡くなりました。農民連本部からの訃報の知らせを受け、がっくりしました。小林さんとは40年近く前に取材したのが付き合いの始まりです。縁あって9年ほど農民連本部と一緒に働き、貴重な教をたくさん受けました。小林さんは1989年1月に結成された農民連の代表常任委員となりました。「なぜ会長でなく、代表常任委員ですか」と取材で聞きました。「常任委員全員で農民連の運動に取り

組んでいくので、その代表です」ときっぱりと言われたことが昨日のように思い出されます。みんなの力を合わせて農民連を発展させるという小林さんの態度は一貫していました。肩書にとらわれず上下隔てなく誰でも平等に接し、「節ちゃん」「節夫さん」と慕われました。農民連が今日あるのは小林さんの存在なくしては語れないと私は思います。結成から全国47都道府県に組織ができ、全国組織として農民の経営と日本農業の発展をめざす日本で唯一のたたかう農民運動組織となったのも小林さん抜きでは考えられないでしょう。宮澤賢治をこよなく愛し、農民のために全身全霊で人生を歩んでこられました。東京大学農学部を卒業後、郷里で5年間、農業改良普及員を務めた後、稲作と酪農に取り組みました。日本共産党佐久市議を7年間やり、旧衆議院長野2区候補として11年間も選挙区内の農家を徹底して回りました。当選できませんでしたが、多くの方の支持をえました。60歳を越えてから東京での下宿生活をしながらの農民連での活動。田植えの水管理なども東京から奥さんにどうするかを指示していた姿を忘れられません。「ものを作ってこそ農民」を貫いてきました。地方に出かける時には、自分の田んぼで収穫したお米で大きなお結びを持参しました。宮澤賢治の精神を受け継いでこられた小林さん。農民連本部を辞めた後、郷里の佐久市で米作りに夫婦で励みました。6年ほど前、家に伺ったときにいただいた名刺は「農業 小林節夫」でした。肩書にこだわらず、農民として一生生きてきた小林さんの思いを一枚の名刺を見ながら、ご冥福を祈ります。

合掌。

(西村)

§ §

